



Intelligence Briefing: WAIC 2026と米中AI分断の最前線

技術的ブレイクスルーと地政学的デカップリングが迫る
「二正面のパラダイムシフト」

2026年7月19日 / 高度ビジネスインテリジェンス・レポート（経営層・戦略担当者向け）

Executive Summary



世界を二分するAI新秩序

29カ国 vs 35カ国

習近平国家主席の登壇と

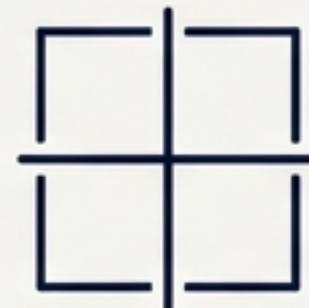
「WAICO」設立によりAI技術は明確に外交カード化。米国主導の秩序に対する対抗軸が完成。



「単体性能」から「実装」へ

1/20~1/50

Huaweiによる超並列ハードウェア構成、中国製モデルの圧倒的な推論コスト破壊、そして10万台規模のヒューマノイド量産化フェーズへ。



ハイブリッド戦略の構築

4象限の再点検

「事業・技術・知財・政策」の4領域での見直し。中国製オープンモデルの限定評価と、非NVIDIA計算基盤への対応準備が急務。

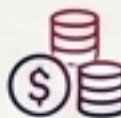
規模と技術の爆発

 展示面積:
10万平方メートル超
(史上初)

出展:
1,100社超 /
世界初公開300点超



中国コアAI産業規模:
1.2兆元
(約1,766億ドル) 突破



「AIの発展は一国の独奏で
はなく、国際協力の交響曲
であるべきだ」

—— 習近平国家主席
(WAIC 2026 開幕式基調演説より)

AIの外交カード化

 途上国へのAI研修枠:
今後5年間で5,000名

 AI気象警報システム
「MAZU (媽祖)」:
30カ国へ提供

 国際協力:
ASEAN・BRICS等との
AI応用協力センター設置

AI地政学の分断マトリクス

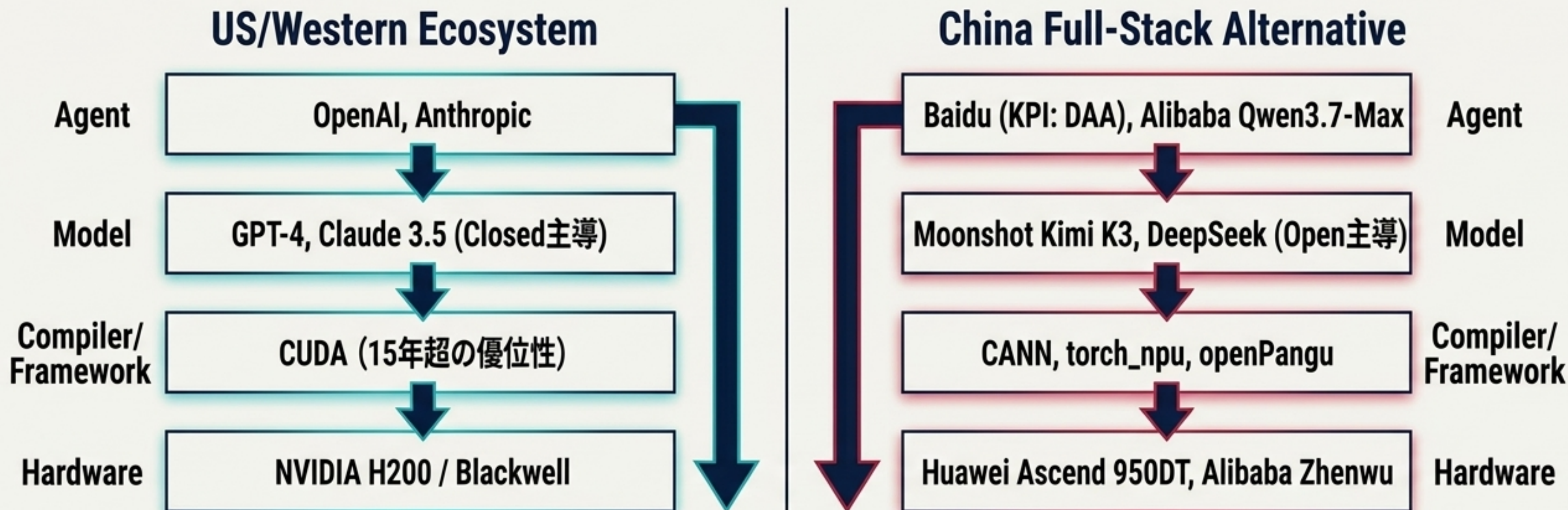
Pax Silica 陣営	WAICO 陣営
陣営・主導：米国・西側G7主導	中国・グローバルサウス主導（本部・上海）
参加規模：35カ国（日本含む）	29カ国（カザフスタン、ロシア、インドネシア等）
中核思想：安全保障・フロンティアAIの統制・同盟国重視	オープンソースの公共財化・格差是正・国連関与
アプローチ：輸出規制と有志国枠組みによる デカップリング	途上国インフラへの浸透と国際ルール形成の 主導権確保



Stanford HAIレポート：モデル性能の米中差は39ポイント（約2.7%）まで縮小。両陣営の技術力は拮抗しつつある。

迫り来る第2のチャイナ・ショック：エコシステムの分断

AI Ecosystem Stack Comparison Diagram



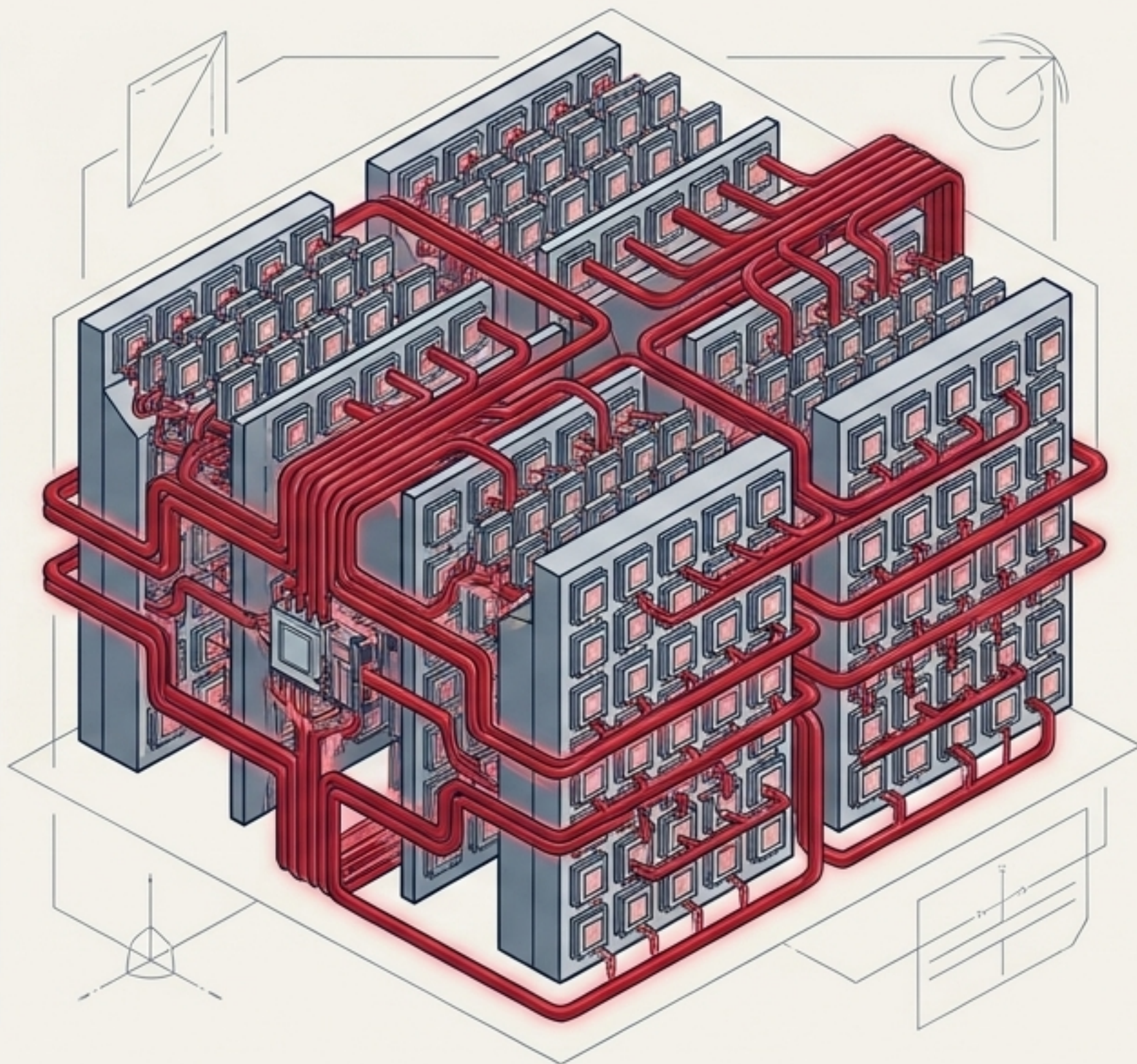
Key Takeaway: 米国の輸出規制に対する中国の回答は、「エコシステム全体の完全内製化（フルスタック自走）」である。

弱者の兵法：Huawei「Atlas 950 SuperPoD」の力技

戦略の転換

課題：
Ascend 950DTの「単体チップ性能」は依然としてNVIDIA最先端に劣後。

解決策：
圧倒的な「**光インターコネクト（連結力）**」で単体の弱さを相殺し、巨大な単一論理マシンを構築。



Atlas 950 SuperPoD 構成（ベンダー公称値）

- 最大**8,192**個のチップを直結
- インターコネクト帯域 **16PB/s**
- NVIDIA NVL144比：
総計算力**6.7倍** /
メモリ**15倍** / 帯域**62倍**
- 次期SuperCluster：
52万超のチップで構成
(2026年Q4)

劇的な価格破壊と「オープンウェイト」の猛威

米国最先端モデル

TCO（総所有コスト）
約**1/20～1/50**へ激減

DeepSeek V4 Flash

入力 \$0.14 / 出力 \$0.28 (100万トークンあたり)

Moonshot AI「Kimi K3」

2.8兆パラメータの史上最大級オープンウェイト。スパースMoEにより1トークンあたり500億パラメータのみ活性化。

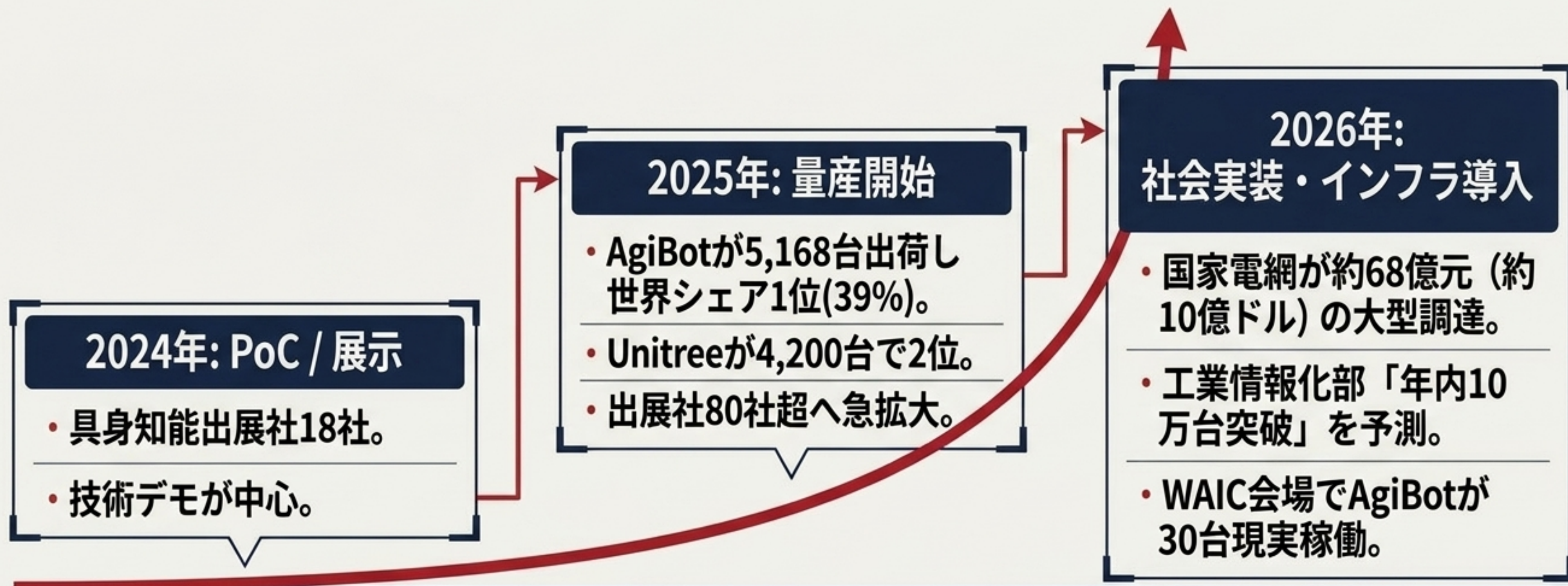
米 Lindy社の事例

全トラフィックを米国製モデルからDeepSeekへ移行し、推論コストを90%削減（CNBC報道）。

グローバルシェアの逆転

OpenRouterの450兆トークン分析において、2026年6月に中国モデルが米国モデルのトークンシェアを逆転。

Physical AI（具身知能）の量産・実配備フェーズへの突入



Insight: デジタル空間のLLM競争から、製造・物流・インフラ現場の「物理的労働力の代替」へ主戦場が完全にシフト。

統合的示唆：日本企業が直面する「二正面のパラダイムシフト」

崩壊した旧ルール：「最高性能の米国製モデルとNVIDIAチップを買い、適用すれば勝てる」



新常識：イデオロギー（安全保障）と経済合理性（コスト破壊）が相反する環境下で、したたかな「ハイブリッド戦略」が不可欠となる。

対抗と共存のための戦略プレイブック (4象限ストラテジー・ボード)

【事業戦略】

- ① 中国製オープンモデルの「評価・限定活用」
- ② フィジカルAIサプライチェーンの再編

【技術戦略】

- ③ 「非NVIDIA」計算基盤の監視と対応
- ④ エージェント前提アーキテクチャへの移行

【知財戦略】

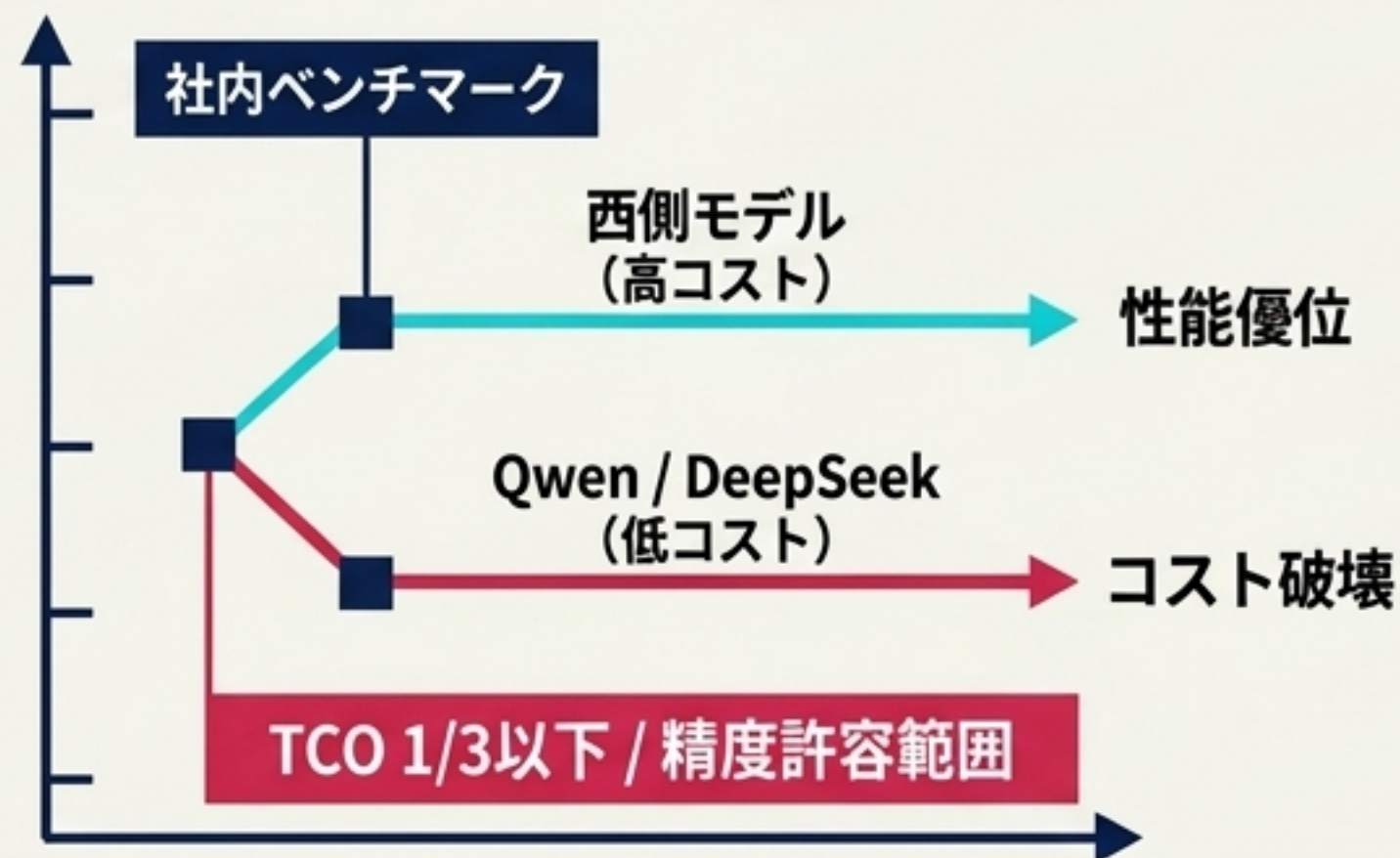
- ⑤ ハイブリッド型（オープン/クローズ）戦略の明文化
- ⑥ WAICO・国際標準化フォーラムへの能動的関与

【政策・リスク】

- ⑦ 陣営分断（WAICO vs Pax Silica）の経営リスク管理
- ⑧ データガバナンスとセキュリティ監査の徹底

【事業戦略】コスト破壊の恩恵享受とサプライチェーン再編

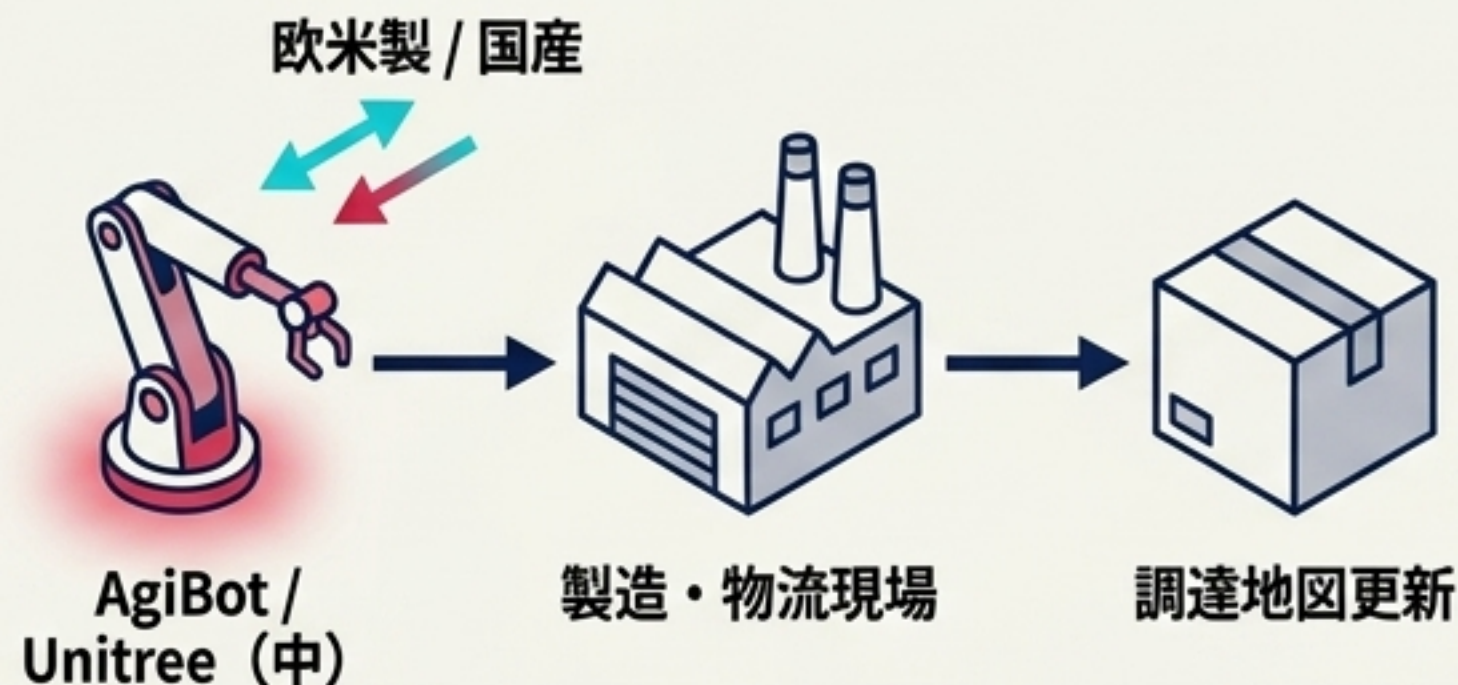
ソフトウェア / モデル活用



アクション: Qwen（日本語に強み）やDeepSeekを社内ベンチマークの基準線に設定。

採用基準の目安: 「西側モデル比でTCOが1/3以下」かつ「精度差が許容範囲」の場合、非機微ワークロードへの限定採用を検討。（※Lindy社の90%削減事例を目標上限とする）

フィジカルAI / ハードウェア



アクション: 2026年度中に製造・物流現場でのロボットPoCを立ち上げ。

調達の三択: AgiBot・Unitree等（中国製）／欧米製／国産。
戦略: 部品・RaaSレイヤーでの価格破壊を前提に、調達地図を直ちに更新する。

【技術戦略】 非NVIDIA基盤への備えと「エージェント・ファースト」



旧KPI：トークン消費量・
単発の推論速度



計算基盤のアグノスティック化

Huawei Ascend、Alibaba Zhenwu等の
本番投入を監視。中国市場向け事業では
国産スタック（CANN等）への対応要否を
評価（第三者検証を必須とする）。

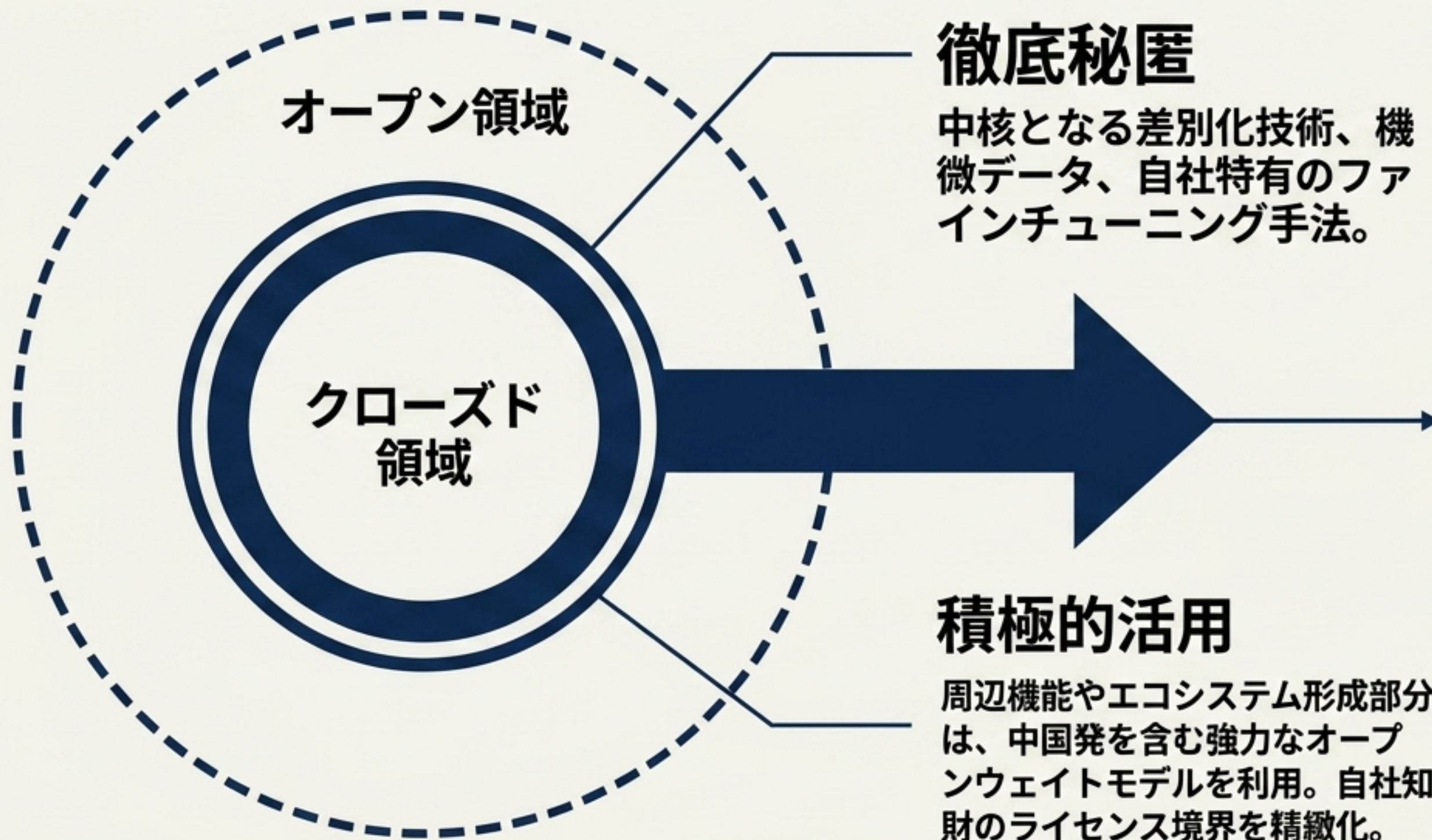


評価指標（KPI）の再設計

新KPI：「Daily Active Agents (DAA) 」
や「長時間自律実行の成果」

Alibaba Qwen3.7-Max（最大35時間の自
律稼働）に象徴される、ツール呼び出しと
マルチエージェント前提の設計へ移行。

【知財戦略】 ハイブリッド防御とルール形成への先手



ルールテイクからの脱却

WAICOがグローバルサウス向けルール形成を狙う中、ISO/IEC等で日本の強み（産業機械・ロボット・品質保証）を組み込んだ標準化ポジションを死守する。

【政策・リスク管理】 分断環境下のデータガバナンス



Defense Mechanism (防御策)

- ・ 機微データを扱う用途と非機微用途の環境を物理的・論理的に完全分離。
- ・ 中国製端末（フィジカルAI含む）調達時には、独立したセキュリティ監査を必須要件に組み込む。

【戦略的意思決定】

決断のトリガー・マトリクス：前提が崩れる4つのシナリオ

